

本日は、徳仁天皇陛下の誕生日を祝うレセプションにご出席いただき、誠にありがとうございます。天皇陛下は、今月 23 日に 66 歳になられます。本日は陛下の誕生日よりも少し早いですが、祝賀レセプションを開催させていただきました。陛下は、2019 年に第 126 代天皇として御即位されて以来、日本国及び日本国民統合の象徴として御公務を遂行されています。

ご来賓の皆様、昨年、私は、総領事館が管轄するバヒオ地域の 6 州、すなわちグアナファト州、アグアスカリエンテス州、ハリスコ州、ケレタロ州、サンルイスポトシ州及びサカテカス州をたびたび訪問しました。そして、各界を代表する方々と懇談し、それぞれの州で操業する日系企業の活動を支え、バヒオ地域と日本との友好関係をさらに発展させていくことにつき協力していくことを確認してきました。

また、昨年は、日本とバヒオ地域の間で政府要人の相互訪問があり、友好関係の深化につながりました。5 月にはリビア・ガルシア グアナファト州知事が、6 月にはテレサ・ヒメネス アグアスカリエンテス州知事が我が国を訪問され、9 月にリカルド・ガジャルド サンルイスポトシ州知事が訪日された時には、同州政府の代表事務所が東京に開設されました。一方、8 月には英利外務大臣政務官がアグアスカリエンテス州とグアナファト州を訪問し、両州知事に温かくお迎えいただきました。また、今年 1 月には堀井外務副大臣がグアナファト州を訪問し、ガルシア・グアナファト州知事、グティエレス・レオン市長に歓迎いただきました。

ご列席の皆様、日本とメキシコの友好関係の今日までの発展を振り返る時、日系社会が果たしてきた役割を忘れてはなりません。メキシコの日系社会は、第二次世界大戦という不幸な一時期を乗り越え、日本とメキシコの人々の友情と相互理解の礎を築いてこられました。現在、メキシコには 8 万人近い日系人が、良きメキシコ市民として様々な分野で活躍されています。彼らの中には、今なお日本人の子孫であることを誇りとし、日本とメキシコの架け橋となり相互理解に貢献しようと努力されている方々がたくさんおられます。今年の 5 月末には、第 17 回全国日系人大会がここレオンで開催され、会議と合わせて日本文化紹介イベントも実施される予定です。日本政府としては、こうした日系社会の活動をできる限り支援していく方針です。

国際情勢に目を転じてみますと、ここ数年、「法の支配」に基づく自由で開かれた国際秩序が揺らいでおり、昨年来、世界経済は不確実性と不透明感がさらに増しています。また、今年、USMCA の規定に従って同協定の共同見直しが行われることとなります。当総領事館としては、日本大使館はじめ日本側関係機関、そしてバヒオ地域の関係各州及び市政府と緊

密に連携しながら、バヒオ地域に進出する日系企業の発展のために引き続き努力してまいります。

ご来賓の皆様、この正月、当総領事館は開設 10 周年を迎えました。日本とメキシコの交流史は 400 年以上前に遡りますし、レオン市は今年、町の基礎ができて 450 周年を祝っています。こうした長い歴史に比べれば、当館が歩んできた 10 年間は大変短いですが、この間にもバヒオ地域の各界の方々、そして在留邦人・日系社会の皆様からご支援とご協力を頂きました。このことに改めて感謝申し上げます。

ご来賓の皆様、私ども総領事館は、日本とバヒオ地域、そして日本とメキシコの友好関係のますますの発展のため、一丸となって努力していく所存です。皆様の引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。ご清聴、ありがとうございました。